



題字：鳩山威一郎

機関紙「友愛」

発行所

(一財)日本友愛協会

〒112-0002 東京都文京区小石川 1-10-13 小石川文ビル2階

TEL:03-5684-3188

FAX:03-5684-3186

E-mail:yuai@yuaiyokukai.com

http://yuaiyokukai.com

発行人：川手正一郎

編集人：

隔月1回 10日発行

年会費

2,000円

第二十六次友愛植林訪中団派遣

遼寧省盤錦市・錦州市・山西省臨汾市 三カ所での植林活動

鳩山由紀夫名誉団長が綴る報告記

多くのふれ合いを体験 高温多湿の中国山地で、元気に植林活動を遂行

七月十四日(火)〜七月二十一日(火)八日間の日程で、鳩山由紀夫理事長を名誉団長、川手正一郎常務理事を団長とする第二十六次友愛植林訪中団が中国に派遣された。今回は、遼寧省盤錦市第一期、遼寧省錦州市第三期、及び山西省臨汾市第三期の三カ所での植林活動を行った。この事業区はすべて平成二十六年度事業として行われるものであったが、地面の凍結など現地気候事情に加え、中国側と日本友愛協会側の事業の都合から七月に日延べされていた。今年の異常気象の暑さはどこも同じで、真夏の高温多湿の中での植林活動となった。それでも一行は元気に植林活動を遂行し、帰国した。鳩山由紀夫理事長が自ら体験記を執筆、ここに写真と共に紹介します。

今年も植林活動に参加

日本友愛協会 理事長 鳩山由紀夫

約束を果たしに 昨年引き続き日中緑化交流基金(小淵基金)による友愛協会の中国植林活動に参加した。

盤錦市植林現場、記念式典で、一人一人に思いを込めて挨拶。鳩山由紀夫理事長



前回は、植林で錦州市に伺った折の歓迎会で、酒宴が進むにつれ打ち解けて、来年もぜひ伺いたい。できれば女房を連れてくる」と、事務局や妻の意向も聞かずに勝手にスピーチしてしまつた。ただ、その言葉で場は一層盛り上がり、王明玉書記は喜んでくださったように思う。

そこで、今回は幸も同行することとなり、川手団長の下、常連の福田八州雄氏、川手団長の孫の川手祥右君、高橋佳大君に加えて、新しく東北大の秋山俊樹君も加わり、事務局の羽中田さんと合わせ、総勢八名で第二十六次植林訪中団を結成した。

七月十四日午前九時に羽田空港に集合し、結団式を行い北京に向かった。今回は、継続事業としての錦州市、臨汾市における植林に加え、新しく盤錦市の事業もスタートして、三カ所の訪問となった。私は日程の都合上、遼寧省の二カ所のみとなり、臨汾市は失礼することにした。

えらいこっちゃ。さらに二時間遅れて到着して瀋陽のみなさんをお待たせするのも失礼だし、年配組も疲れているだろうし、今日は食事抜きかと非常に心配になった。ところが全くの杞憂であつた。

瀋陽友誼賓館に着く前にあり、北京から省都瀋陽まで飛び、瀋陽からバス移動の日程であつた。北京空港では中華全国青年連合会・中国国際青年交流中心の孫俊波主任が待っていてくださった。旧交を温めていざ瀋陽行きの飛行機に乗り込もうとしたとき、ハプニングが起きた。天候の関係とかで、あと二時間飛ばないという。順調に飛んでも瀋陽の歓迎晩餐会が十九時半に予定されている。

そればかりか、ご当地の特別な料理である珍しい九種類の鍋料理を、回転する大きな円卓に並べてくださった。魚介類中心の美味い鍋料理に、一行はすっかり疲れも取れ、明日からの植林活動のために英気を養うことができたことは言うまでもない。広い中国を走る、走る

中国は広い。翌日は簡単な朝食を済ませ、七時にバスに乗って出発したが、盤錦に到着したのは十時であつた。既に記念植樹式には暑さの中、ボランティアの青年たちが三〇〇人ほど、整列して待っていてくれた。彼らの前で名誉団長として挨拶をした。

私が特に強調したこと、ここは、かつて日本が満州事変から中国を侵略していったスタートの地域である。そのお詫びの気持ちも含めて、友愛の理念の下で日本が植林活動によって中国のみなさんと協力できることは、大変に大きな意義があると思う。気候変動によって全世界で大きな被害が出ている昨今、地球環境を守るために中国と日本の若者たちが協力して植林活動を行うことは素晴らしいことである。

ポプラの成長を願つて 実際には、七月は暑すぎて植林の時期ではない。四月辺りが適切な時期であつたのだが、さまざまな事情遅れての到着にも拘わらず、大きな円卓に、名物の鍋料理が湯気上がり皆さん待っていてくださった。

盤錦市の景勝地の自然 その後、威厳のある女性、李素芳副書記による盤錦市政府主催の昼食会を済ませて、盤錦市のご自慢、紅海灘風景区と呼ばれるレッドビーチに向かった。

そこは何とも珍しい光景であつた。遼河の河口部一面にレッドカーペットが敷かれていたのである。その盤錦市の植林現場の大きな記念碑。母なる河を護る活動と書かれ、日本友愛協会の名が刻まれている。

正体は「マツナ」と呼ばれるサンゴ草の一種で海藻であつた。アルカリ土壌で育つマツナは、夏を過ぎると真紅に染まるという。海と川との境目の汽水域だからこそ育つのだろう。マツナの周囲に無数の穴が開いていて、小さなカニが頻りに出入りしていた。また、数えきれないほどのトンボが舞っていた。中国の自然のスケールの大きさには驚くばかりであつた。

ここで盤錦のみなさんに別れを告げて錦州に向かった。錦州まではバスに乗り、また三時間ほどかかった。そして昨年と同じ筆架山荘に着いた。

王明玉書記は不在であつたが、なじみのみなさんの顔を拝見し、懐かしく懇親を深めることができた。「約束通り、女房を連れてきたよ」と申したら、王明玉書記からの「どうしても錦州を離れなければならぬ用事があり、誠に申し訳ない」との伝言を、伝えていただいた。止むを得ない事情があることは経験上良く植え付けの終わった盤錦市の植林現場。ポプラの苗が、元気に若葉をだしている。

王明玉書記は不在であつたが、なじみのみなさんの顔を拝見し、懐かしく懇親を深めることができた。「約束通り、女房を連れてきたよ」と申したら、王明玉書記からの「どうしても錦州を離れなければならぬ用事があり、誠に申し訳ない」との伝言を、伝えていただいた。止むを得ない事情があることは経験上良く植え付けの終わった盤錦市の植林現場。ポプラの苗が、元気に若葉をだしている。

王明玉書記は不在であつたが、なじみのみなさんの顔を拝見し、懐かしく懇親を深めることができた。「約束通り、女房を連れてきたよ」と申したら、王明玉書記からの「どうしても錦州を離れなければならぬ用事があり、誠に申し訳ない」との伝言を、伝えていただいた。止むを得ない事情があることは経験上良く植え付けの終わった盤錦市の植林現場。ポプラの苗が、元気に若葉をだしている。

▼猛暑の夏が突如として過ぎ、東日本は八月だというのに秋の気配である。ビールに欠かせない枝豆も、地場産のものには既に姿を消しつつある。唯一自信がある料理(?)が枝豆である筆者には残念な限りである。▼枝豆の品種は四〇〇種以上あるそうだが、当地の枝豆は茶豆が主である。収穫の時期は、関東地方でもっとも一般的な白毛豆(青豆)と関西地方で多く栽培される黒豆のちょうど中間ぐらいで、例年お盆の時期が出荷の最盛期である。茹で立ての茶豆は、豊かな香りと独特の風味があり、高級品とされる品種も多い。▼とりわけ、かつてビール会社のCMに採用された「だだ茶豆」は全国的に有名なブランド品種となつている。山形県鶴岡市の特産であるだだ茶豆は、インターネット販売でも最上位を争うほどの人気商品となり、その販売会社は瞬く間に業容を拡大させた。十年ほど前のお盆の時期に、だだ茶豆の直販目当てに産地を家族旅行で訪れたことがあるが、J A支所での早朝からの行列と通常の茶豆の倍以上の値段に閉口した。その後は訪れていないが、今では立派な産直館が立っているようだ。▼T P P交渉で揺れる日本の農業にとつて、生産・加工・販売を融合し地域ビジネスとして付加価値をつける「六次産業化」は、生き残りのための処方箋の一つという。だだ茶豆は代表的な成功例だが、農産物全体で見れば、一体どこまでブランド化によって輸入自由化の荒波を乗り越えることが可能なのだろうか。学生と行く安い居酒屋で中国産の枝豆をつまみながら、そんなことを思う。

(ヒゲ)

友愛時評

▼猛暑の夏が突如として過ぎ、東日本は八月だというのに秋の気配である。ビールに欠かせない枝豆も、地場産のものには既に姿を消しつつある。唯一自信がある料理(?)が枝豆である筆者には残念な限りである。▼枝豆の品種は四〇〇種以上あるそうだが、当地の枝豆は茶豆が主である。収穫の時期は、関東地方でもっとも一般的な白毛豆(青豆)と関西地方で多く栽培される黒豆のちょうど中間ぐらいで、例年お盆の時期が出荷の最盛期である。茹で立ての茶豆は、豊かな香りと独特の風味があり、高級品とされる品種も多い。▼とりわけ、かつてビール会社のCMに採用された「だだ茶豆」は全国的に有名なブランド品種となつている。山形県鶴岡市の特産であるだだ茶豆は、インターネット販売でも最上位を争うほどの人気商品となり、その販売会社は瞬く間に業容を拡大させた。十年ほど前のお盆の時期に、だだ茶豆の直販目当てに産地を家族旅行で訪れたことがあるが、J A支所での早朝からの行列と通常の茶豆の倍以上の値段に閉口した。その後は訪れていないが、今では立派な産直館が立っているようだ。▼T P P交渉で揺れる日本の農業にとつて、生産・加工・販売を融合し地域ビジネスとして付加価値をつける「六次産業化」は、生き残りのための処方箋の一つという。だだ茶豆は代表的な成功例だが、農産物全体で見れば、一体どこまでブランド化によって輸入自由化の荒波を乗り越えることが可能なのだろうか。学生と行く安い居酒屋で中国産の枝豆をつまみながら、そんなことを思う。

(ヒゲ)



記念植樹も丁寧に。植え終わった後、充分な水を施し、強く大きく育てて成長を願う



鳩山由紀夫理事長は、日本と中国の関係、植林に懸ける思いなど、思いの丈を熱く語った



盤錦市植林現場記念碑の前で、友愛第二十六次訪中団一行が揃って記念撮影



盤錦市自慢の景勝地。右上にはマツナの紅が広がり、手前には緑豊かな稲の絵が描かれていた



乾いた土のポプラの苗を心配そうに見つめる鳩山由紀夫理事長。この後何杯もバケツで水やりを



最近では珍しい程大きな、錦州市の記念碑。日本友愛協会と中華全国青年連合会の名がハッキリと



向こうに見える島が筆架山島。干潮の頃は、潮干狩りなどの客で賑わっている地元の人気観光地



ビーチサンダルに履き替える、鳩山由紀夫理事長ご夫妻。筆架山島への並々ならぬ情熱が



友誼賓館の庭にある池では、見事なハスの花が見頃を迎えていた。花の開花を狙って早朝の散歩に



見事に整備されている友誼賓館の庭。遼寧省の迎賓館として使われている

顔を向かい合わせるのが食事ならば、植林は、緑豊かな未来、という方向に向かって皆が目線を揃えて行こうものだった。

中国のボランティアの青年たちと一緒に、シャベルで苗木に土を被せていたときおそろしく私と彼の頭の中では、十年後のこの土地に大きく育った木々の緑が萌える光景を描き、気持ちが一つになつていたのでな



錦州市の植林現場で、記念碑を前に訪中団、関係者と記念撮影。写真左端筆者



鳩山由紀夫理事長と中国の銘酒「白酒」で緊張しながらの乾杯。これからも頑張ると激励された

分かつているが、お会いできなかつたことは残念であった。昨年、苗も成長！

三日目の朝、昨年植林した事業地を訪れた。ポランテアのみなさんが五月に植えたばかりのポプラの苗がしっかりと育っていた。そこで、形ばかりの保育作業として一メートルほどに育っていたポプラに水やりを行った。最近、暫く雨が降っていないらしく、ポプラは水を欲しがっていた。

ポンプ車からバケツで水を汲んで、一面に広がるポプラの幹に人力で水を与える作業は大変な労力である。私どもは早々に引き上げてしまったが、果たして育つのだろうかとかや不安になった。適度な降雨があれば良いのだがと、神に祈る気持ちになった。人為的な地球温暖化の被害者は自然の生き物たちである。モーゼの如く海を渡る

にはいかな。筆架山荘から歩いて二、三分の道のりから、三キロ先にある筆架山島まで、通常は海の中なので、引き潮のときだけ「天橋」と呼ばれる道がでるのである。まるで旧約聖書の「出エジプト記」で、モーゼが杖を振り上げると海が割れたように、筆架山島まで海が割れて道ができ、歩いて渡れるのである。ちょうど昼食後の時間に引き潮になるといので、昼食

をそそくさと済まして「天橋」を皆で渡った。途中一か所だけ海水に浸るところがあったが、洪桂梅副主任が、「ドラえもん」さながらに、たちどころにビーチサンダルを調達してくださった。全員そのサンダルに履き替えて、老若男女みな無事渡り終えることができた。今回の旅程の中で、不謹慎かもしれないが、最も充実した瞬間のように思えた。

その後、再び瀋陽の友誼賓館に三時間かけて戻り、ビーチサンダルに履き替える、鳩山由紀夫理事長ご夫妻。筆架山島への並々ならぬ情熱が

遼寧省政府主催の晩餐会に出席した。翌朝、ホテルの広い庭園に咲く美しい蓮の花を愛で、臨汾の記念植樹を川手団長にお任せし、帰路に着いた。

全ての日程を孫俊波主任がお付き合いしてくださったことなど、並々ならぬ全青連・中国青年国際交流中心のみなさんの献身的な働きぶりに、心から感謝を申し上げる次第である。

友愛植林訪中第二十六次訪中団に参加して

東北大学経済学部四年 秋山 俊樹

互いの顔が見える円卓 今回の訪問で印象に残っているのは、円卓を取り囲んでの食事の風景である。中国の食事の席では、円いテーブルを取り囲み食事をすする。訪問中は、中国のスケールの大きさを感ぜさせるような特大の円卓で食事をした。最初に見たときにはその迫力と豪華絢爛の様に息をのんだ。と同時に、丸いテーブルを皆が囲むため一人一人の顔がよく見えることに気づいた。食事中は皆が席を回り一人一人と言葉を交わし乾杯をする。杯をかわすともう気持ちを通じた気分になる。全員が顔と顔をつき合わせる中国風の食事の風習は、人々の距離を埋めることを助ける。最初は緊張して落ち着かない私だったが、同席者の方々と話をしていく中で気も落ち着き、食事を終える頃には皆の顔と名前を覚えていた。

未来を見据えて 顔を向かい合わせるのが食事ならば、植林は、緑豊かな未来、という方向に向かって皆が目線を揃えて行こうものだった。

中国のボランティアの青年たちと一緒に、シャベルで苗木に土を被せていたときおそろしく私と彼の頭の中では、十年後のこの土地に大きく育った木々の緑が萌える光景を描き、気持ちが一つになつていたのでな

長い間継続され幹の太くなった交流に関わることができて私は非常に幸運だった。

鳩山由紀夫理事長の真摯な言葉による挨拶、心のもった力強い川手団長の言葉からも、日本友愛協会が植林事業に向き合う様子が伺えた。



臨汾市の植林地に集まったボランティアの青年たち。友愛訪中団と力を合わせ頑張ろうと誓った



臨汾市の植林地での記念式典。川手正一郎団長が挨拶。向こうの山々がいつれ緑に覆われる日が



臨汾市の植林地現場。既に地元の方々の手で、多くの苗が植えられている

日本友愛協会が行った植林の記録

15年間での訪中回数26回 総植樹面積3,310ヘクタール 文京区・千代田区・中央区に匹敵

訪中次	年度	植林活動実施日	実施場所	工期	面積(ha)	本数(万本)	助成金(千円)	
第1次	12年度	13年(2001) 1月15日(月)~1月20日(土)	広西チワン族自治区/柳州	第1期	200.0	17.40	9,700	
第2次	13年度	14年(2002) 1月25日(金)~1月30日(水)	広西チワン族自治区/柳州	第2期	200.0	33.00	14,900	
第3次	14年度	15年(2003) 1月19日(日)~1月23日(金)	湖北省黄崗市/武穴	第1期	130.0	10.92	9,900	
第4次	15年度	15年(2003) 9月21日(日)~9月25日(木)	広西チワン族自治区/柳州	第3期	200.0	33.00	14,600	
第5次	15年度	16年(2004) 2月10日(火)~2月15日(日)	広西チワン族自治区/鹿寨県	第1期	200.0	33.00	19,800	
第6次	16年度	16年(2004) 6月15日(火)~6月20日(日)	湖北省黄崗市/武穴	第2期	150.0	15.10	14,700	
第7次		17年(2005)	1月21日(水)~1月23日(金)	広西チワン族自治区/鹿寨県	第2期	200.0	33.00	19,800
第8次	3月2日(火)~3月6日(日)		湖北省黄崗市/武穴	第3期	100.0	9.00	14,700	
第9次	17年度	18年(2006) 2月14日(火)~2月21日(火)	湖北省シキ県/三峡ダム	第1期	200.0	33.00	19,100	
			広西チワン族自治区/鹿寨県	第3期	90.0	14.30	10,000	
第10次	18年度	19年(2007) 2月2日(金)~2月9日(金)	広西チワン族自治区/柳州	第4期	80.0	13.20	10,000	
			湖北省シキ県/三峡ダム	第2期	100.0	16.00	14,900	
第11次	19年度	19年(2007) 12月13日(木)~12月17日(月)	福建省アモイ市/翔安区	第1期	100.0	16.50	14,900	
第12次		20年(2008) 2月26日(火)~2月29日(金)	湖北省シキ県/三峡ダム	第3期	48.6	8.00	9,800	
第13次	20年度	20年(2008) 12月12日(木)~12月15日(月)	湖北省シキ県/三峡ダム	第4期	100.0	16.50	24,300	
第14次		21年(2009) 3月12日(木)~3月15日(日)	福建省アモイ市/翔安区	第2期	62.0	5.40	14,900	
第15次	21年度	21年(2009) 12月23日(水)~12月26日(土)	湖北省シキ県/三峡ダム	第5期	100.0	16.50	19,500	
第16次		22年(2010) 3月3日(水)~3月5日(金)	福建省アモイ市/翔安区	第3期	70.0	4.26	14,900	
第17次	22年度	22年(2010) 12月12日(日)~12月15日(水)	湖北省シキ県/三峡ダム	第6期	100.0	16.50	19,500	
第18次		23年(2011) 3月2日(水)~3月5日(土)	福建省アモイ市/同安区	第1期	44.8	7.05	9,500	
第19次	23年度	23年(2011) 12月15日(木)~12月18日(日)	福建省アモイ市/同安区	第2期	45.0	7.20	9,600	
第20次		24年(2012) 2月21日(火)~2月25日(土)	湖北省孝感市	第1期	54.1	6.78	11,500	
10年経過視察	23年(2011)	6月14日(火)~6月20日(月)	柳州(第一次・第十次)・武穴(第三次・第八次)・鹿寨県(第五次・第九次)					
第21次	24年度	25年(2013)	3月4日(月)~3月8日(金)	福建省アモイ市/同安区	第3期	45.0	6.00	10,700
第22次			3月14日(木)~3月17日(日)	湖北省孝感市	第2期	61.4	9.85	13,000
第23次			6月17日(月)~6月22日(土)	山西省臨汾市	第1期	60.0	10.00	13,100
			遼寧省錦州市	第1期	80.0	16.60	9,800	
第24次	25年度	26年(2014)	3月11日(火)~3月14日(金)	湖北省孝感市	第3期	30.0	4.30	12,000
第25次			4月18日(木)~4月23日(火)	山西省臨汾市	第2期	120.0	10.00	16,800
第26次	26年度	27年(2015)		遼寧省錦州市	第2期	95.0	31.35	13,400
				遼寧省錦州市	第3期	120.0	9.00	14,600
				遼寧省盤錦市	第1期	95.0	31.00	13,400
				山西省臨汾市	第3期	30.0	5.10	9,500
				合計	3,310.9	498.81	446,800	



崩れやすい土壌のため、一本一本岩で囲いを造り、土壌の流失を防ぎながら苗を植えている



地元のボランティアの方々、肩を組んで、高齢の方も、積極的に植林活動に参加しているとのこと



太原市の生鮮市場。スイカ一玉が特大の大きさ。向こうに見える軽トラと比べその量を想像して



中国国際青年交流中心の事務所で、友愛と協力して事業を行ってくださっている方々、皆元氣だ!



二十一世紀飯店など、ホテルのロビーには「友愛国際写真コンクール」のポスターが掲示されている



楽しい出合いを過ごした翌朝、同宿の高橋啓三先生の門下生と一緒に記念撮影。写真右筆者

友愛山荘での一日

友愛ならではの出合いを体験 茨城県下妻市 外山茂登子

小雨降る朝、それでも心は快晴で「友愛山荘」に向けて出発しました。

高速道路を走りながら、望む山々には霧がめぐり、かすんで見えます。対向車もライトを点けて走っています。

不安な気持ちも鳩山一郎先生・薫先生の銅像の前にすると、来て良かったの思いに変わります。

お二人の銅像に手を合わせ、お顔を見上げてみると「落ち葉松の森の中を、一人とほとほと歩いて行く……」一郎先生の著書の中の一コマが思い起こされ、一郎先生が活躍された頃の、活気と迫力にあふれた国会の模様など、過ぎ去った歴史が浮かんできます。

玄関で迎えてくださったスタッフの皆さんは、いつもと変わらぬ優しい笑顔。日ごろの疲れも忘れてしまっています。

音が止み、あたりの静けさが友愛山荘を包み、夜は更けて行きました。

朝日に照らされて、窓から「百合の花」が風に揺られ、私たちに「おはよう」と声をかけています。隣の部屋からも、学生さんが「おはようございます」と近づいて来てくださって、素晴らしい友愛山荘ならではの、出会いの一日が始まりました。

夏が来て 家事を忘れて 緑の風と 笑顔の迎え

